

## 二〇二五年度入学試験問題

## 国語 (六〇分)

## 注意事項

- 一、試験開始の合図があるまで、問題冊子は開かないでください。
- 二、この問題冊子は26ページあります。試験中、ページの脱落等に気づいた場合は、手を挙げて監督者に知らせてください。  
解答用紙(マークシート)の汚れなどに気づいた場合も、同様に知らせてください。
- 三、解答用紙(マークシート)は折り曲げたり、汚したりしないでください。
- 四、解答は、すべて解答用紙(マークシート)に記入し、解答用紙(マークシート)の枠外には、なにも書かないでください。
- 五、解答番号は、1～44まであります。  
解答用紙(マークシート)には、問題番号が1～50、選択肢が①～⑩まで印刷されていますが、解答にあたっては、各設問に指示された選択肢の数の中から選んで解答してください。
- 六、マークは必ずHBの黒鉛筆を使用し、訂正する場合は、完全に消してからマークしてください。
- 七、監督者の指示に従って、解答用紙(マークシート)に解答する科目・受験番号をマークするとともに、受験番号および氏名を記入してください。
- 八、解答する科目、受験番号、解答が正しくマークされていない場合は、採点できないことがあります。
- 九、試験終了後、問題冊子は持ち帰ってください。

## 問題一

次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

草や木の肌から水気が湧き出て、むし暑い夜である。雨は止んでいる。

穂と私は人ごみに混って、南大門の前に立った。穂は単衣の着物に、長い髪をくると巻き上げて螺鈿の櫛をさしている。裾から腰にかけて、林立する北山杉をジモンに織り込んだ、端正な訪問着である。その幾何学的な、うぐいす色の着物を、穂はしなやかに着ている。旅の途中にある私は、ジーンズ姿の軽装である。雨はまだ降りそうである。

濡れない、と気がかりなので訊ねると、降ればぬれるでしょうねえ、と穂は空を仰いで答えた。仲秋の月見をしないか、と私の誘いを受けたときから、この着物を着ようときめていたという。穂が東京を発つとき、すでに雨は予測出来た。が、予定通り着てきたらしい。二人が逢うのは、四年ぶりである。(中略)

私たちが立っている寺の南大門は、玉砂利の参道よりも十二、三段、高くなっていた。月が昇るころから寺の茶屋で、茶会が催されている。私たち一般の参拝者にも、希めば、茶がふるまわれるらしい。御影堂の、有名な襖絵も公開されている。一片の月光もない月見の夜に人出が多いのは、そのせいである。それらの人びとのために、参道の両側の植込みの足許に、露地行燈が灯してあった。三間おきぐらいだろうか。四角い露地行燈で、木枠のまわりに和紙が貼ってある。なかにロウソクが灯されて、周辺だけがぼんやりと明るい。

兩名月もいいものね、と穂がいった。

点々と灯る露地行燈の遠い正面に、金堂の灯がみえる。光に浮き出て、まるく太い金堂の柱と、木柱の間から三体の御仏がみえる。そのほかは空も木立も金堂の大屋根も、境のない闇である。いま畳み重なる雲を切って仲秋の月が照り始めれば、闇は、どのような展開をみせてくれるだろうか。三十年も前の夏に一度、私はこの寺へきたことがある。大学生の従兄と一緒だった。美学を専攻していた従兄は、御仏の衣の流れや表情などについて説明してくれたが、私は、八月の太陽に刃金のように冴えた金堂の大屋根を、ただ眺めていた。雨月も趣があるが、画家の穂は、金堂に照る月をみるためにやってきている。これまでの二人の旅行には、雨がついてまわった。しかし今回は、照り映える月の光が旅の条件の一つで、月光がなければ絵は色彩をなくして、描けなくなる。私がそういうと穂は、大画家をきどるつもりはないけれど、面白いのところが、闇を闇で終わらせるの哀しいでしょ、と関西弁の抑揚でいった。東京育ちの穂は、ときどき関西風な訛で話す。代々の東京人で、戦争が終る一年前に上海の女学校に転校してきて、半年ほど在籍して、すぐまた東京へ戻っている。関西人のアクセントは、恋人だったAの影響だろう。

目がなれて、前方の空に金堂のシルエットが浮き出てきた。空のほうがわずかに、金堂の大屋根より明るい紫紺の色をなしている。木立も黒く見取れるようになった。金堂に向かって、木立は参道をはさんで左右に広がり、大屋根の背後は空である。何ともおらかな紫紺の濃淡で、眺めていると、自然に深呼吸がしたくなる天地である。

むかしの坊さん、なに考えとったんやろうな、叶わんな、と近くで若い男の声がした。なにが叶わんの、と連れらしい娘が聞いている。まったく、と私は他人の会話につぶやいて、白昼の太陽に蕘を張っていた金堂も怖いと思つた、と穂にいった。幾つどころ、と穂が聞いた。二十一、二歳だつたらうか。髪にはまだパーマネントも、かけていなかった。

穂が、怖いって、叶わないって種類の、と青年の言葉を聞いていて、念をおした。念をおされると、そのときの感情をどう説明していいか、私は戸惑つた。立ちすくんで、身構えた記憶がある。蕘を射る光に身構えたのか、さえぎるもののない青空にだつたか。あるいは金堂の大屋根の雄大な流れに感動したのか、これを創ろうと考えた人の精神にか。

南大門の高い位置から金堂を眺めると、棟の線は、瞼をちよつと伏せた睫毛の先にかかる。金堂に至る参道の距離も、大門と金堂の高さも、すべてが計算ずくの構図なのだろう。しかし天平の人ののびやかな思いを、あれこれセンサクするだけで自分が余計に小さくなる。

穂が、相手さんのパレットは天と地ですもの、ほんとに叶わんな、だわ、ありがたいから今夜は手を合わせるだけにしましよ、と青年の感想 A、拝む真似をした。穂と私は、玉砂利の参道を金堂へ、歩いていった。(中略)

穂と私は、人の群が切れるのを待つことにして、御影堂から鉤の手に続いた濡縁に、腰をおろした。(中略) 私たちが坐つた縁先からでも、絵はみえた。家庭にある建具より幅の広い襖が、広間の奥の壁面に立ててある。広間は百畳以上の広さがある。その広い空間に向けて、襖絵は波頭を巻き上げて立ち並んでいる。

凄<sup>すこ</sup>い絵、と穂がいった。私は、置物が何一つない広間をみていた。アンチされているはずの和上の坐像もない。穂の言葉通り海原はうねって、飛礫のような飛沫が降りかかってきそうな、見事な絵である。しかし東支那海の、ゆううつで、白く泡立った海を数回連絡船で往復している私には、耐えられない波のねばりである。絵の見事さよりも、波の怖<sup>おそ</sup>しさが先にあった。

あの波頭の無心なこと、と穂がいった。私より広間に近い縁先に坐っている穂は、別のあと一枚の絵をみていた。身をそらせて、私にもみえるようにしてくれている。穂の胸許に首を伸ばして、私は穂がさしている襖絵をみた。怒濤の襖絵と対照的な、招き猫の爪をまるめた、柔<sup>やわら</sup>かい波が砂浜に寄せている。

Bが描いてある、とカンタンする、絵描きらしい穂の観察で、私は鑑真和上が盲目であったのに気づいた。(中略)

やっぱり闇も描けるのちがうかしら、と穂が独り言をいった。南大門に立ったときから闇にこだわっている穂に、なぜ闇を描きたのかと私は聞いた。照し出したい願望がしきりにある、と穂はいつて、たぶん闇はわたしの過去、といった。背後は真つ暗なのか、と私は訊ねた。独身を通して穂の過去は、同学生生の誰よりも、華やいでみられている。扇子で胸許の夜気を払っていた穂が、真つ暗闇ならそれもいいのだけれど、と言葉を切つて、希望としてね、これから先の人生をあの人と暮らしたいの、と二十年も前に別れた恋人の名をいった。驚いて、私は穂の顔をみた。終ってしまった相手ではなかったのか。十年の間恋人だったAと別れた後も、穂は幾つかの恋をしている。両親が遺してくれた貸家があるから、食べるには困らない毎日だし、森や林を、一号の空間に押し込んでしまふ穂の油絵は、ソウシヨクヒンとして人気がある。何よりもその間に、二十年の年月がある。忘れてしまえる、常識的な条件は揃っている。それでも穂は、Aへの想いを残していたのだろうか。

そんな気持とつくに忘れました、と軽く穂がいなした。有つてもいいんじゃない、と私は気をひくいいかたをした。懐しさかしら、でもそれだけのために、この世の終りをともに過したのではないの、人生をふり返つてね、生活していた実感もてるのはあのころしかないのね、二十代の後半から三十代にかけて、心も肉体も充実していたわたしの時を知っているのは、彼だけでしよう、その時を話しあつて確められるのもあの人の、と穂がいつた。穂の人生を確なものにしてくれるのは、敗戦の数年後に相次いで病死した、父でもない母でもないという。父母の許に還ることで、自分の生を全うしようと願っている私の思いと、これは大きな差である。穂も私も若くはない。それぞれが生き方を探して迷っている年代だが、過去を確認するだけのために、一度別れた男と晩年を過せるものだろうか。

わたくしのために出来る、過去の確認で終るのではなく、これからの生涯につなぐ、わたくしのためにやらなければならないことなの、と穂は、そこだけをわたくしと固く際立てていつた。言葉の固さに比べて、意外に穂は、穏かな表情をしていた。口調も穂らしく柔かで、わたしの人生をわたしのものにするために、あのひとの時期は要るの、そのために彼との晩年が必要な、雑木林のなかをみえがくれについて歩いて、気がついたら細い道さえ消えている、このままじゃ吹き流しのようになうわべだけの人生で終つてしまふ、可哀相すぎやしない、わたくしが、といった。Aは穂にとって、穂の生涯を映し出す襖絵であるらしかった。

(林京子「雨名月」による)

(注) 1 南大門……都城・仏寺などで、南方にある正門。本文では、唐招提寺（とうしやうたいじ）の南大門である。

- 2 単衣……裏をつけないで仕立てた着物。
- 3 螺鈿……貝殻から真珠色に光る部分を切り取って磨き、その薄片を漆器や木地にはめ込んでかざりつけたもの。
- 4 御影堂……唐招提寺境内の北側に位置する建物。
- 5 三間……約五・四五メートル。間は尺貫法で長さを表す単位。一間は六尺で、約一・八二メートル。
- 6 金堂……南大門をくぐると見える国宝建築物。
- 7 上海……中国長江の河口近く、黄浦江（こうほくわう）下流部にある大都市。
- 8 和上……鑑真和上。唐の僧、日本律宗の開祖（六八八〜七六三）。唐招提寺に伝わる国宝・鑑真和上像は、国内最古の肖像彫刻とされる。
- 9 一号……「号」は絵画で画面の大きさを示す単位。風景画の一号は二二〇mm×一四〇mm。

問一 傍線部 a・f・h・j と同じ漢字を含むものはどれか。次の 1〜4 のうちから最も適当なものをそれぞれ一つずつ選びマークし

なさい。解答番号は  。

a「ジモン」

- 1 携帯電話の画面にシモンがついた。
- 2 ゼンダイミモンの事件を調査した。
- 3 テンモンガクについての本を読む。
- 4 有名な学者のモンカセイとなる。

f「センサク」

- 1 彼は失敗を隠そうと、懸命にサクを弄していた。
- 2 辞書に載っていない言葉をインターネットでケンサクした。
- 3 小学生の作文をテンサクするアルバイトをしている。
- 4 夏休みに牛のサクニユウを体験した。

h「アンチ」

- 1 彼は事件の裏でアンヤクしていた。
- 2 祖父は全国をアンギャする旅に出た。
- 3 これは重要なアンケンの一つだ。
- 4 熱が下がるまでアンセイにするよう医師に言われた。

i「カンタン」

- 1 遠方からの客をカンゲイする。
- 2 投手はボールをカンキユウ自在に投げ分けた。
- 3 強く心を打たれ、カンルイにむせぶ。
- 4 屋上からのケイカンは素晴らしかった。

j「ソウシヨクヒン」

- 1 この本はゴシヨクが多い。
- 2 友人にシヨクハツされて運動を始めた。
- 3 未来への不安がフツシヨクできない。
- 4 デンシヨクがかがやく通りを散歩する。

問二 傍線部 b・k の語句の意味はどれか。次の 1～4 のうちから最も適当なものをそれぞれ一つずつ選びマークしなさい。解答番号

は 6 } 7。

b「仲秋」

- 1 陰暦八月
- 2 陽暦八月
- 3 陽暦九月
- 4 陰暦九月

k「いなした」

- 1 さえぎった
- 2 かわした
- 3 否定した
- 4 論じた

問三 傍線部 c「大画家をきどるつもりはないけれど、面白いのところが、闇を闇で終らせるの哀しいでしょ、と関西弁の抑揚でいつ

た」とあるが、穂がこのような言葉を発したのはなぜか。次の 1～4 のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 8。

- 1 「闇」は自身の過去を表しているように感じられ、過去の時間のなかにこそ今後の人生の希望を見出したかったから。
- 2 「私」との旅行にはいつも雨がついてまわるので、どうせなら雨の闇を表現してみることにも一興だと思ったから。
- 3 真つ暗な「闇」のようであった自分の過去をふと思ひ出し、芸術家として闇に一条の光を与えてみたいと思ったから。
- 4 月光に照らされた金堂を描きたいのはもちろんだが、画家である自分は闇の風情ふぜいも表現できるといふ自負があったから。

#### 問四

傍線部d「まったく、と私は他人の会話につぶやいて」とあるが、この時の「私」の心情はどのようなものか。次の1～4のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 9。

- 1 鑑賞する気のない若者に怒りを覚える気持ち。
- 2 若者が何を言いたいかまったくわからないという気持ち。
- 3 なぜそのような失礼なことを言うのかと驚きあきれる気持ち。
- 4 まさにそのとおりだと賛同する気持ち。

#### 問五

傍線部e「怖いと思った」とあるが、具体的にはどういうことか。次の1～4のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 10。

- 1 天平時代の建築家の精神に対し、得体の知れない恐怖を感じずにはいられなかったということ。
- 2 壮麗な建築を見ているだけで、自分の存在にすら畏怖の念を抱いてしまったということ。
- 3 白昼に輝く金堂の刃金のような美しさは、見るものを脅かすようなものであったということ。
- 4 自分が何に身構え、心を動かされているのかさえわからないほどの圧倒感を抱かされたということ。

#### 問六

傍線部g「相手さんのパレットは天と地ですもの」とあるが、どういうことか。次の1～4のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 11。

- 1 天平時代の建築物は、あたかも天と地を画布にして描いた芸術作品のようだということ。
- 2 金堂を臨んだときに眼前に広がる風景は、天と地が織りなす色彩が絶妙な、壮大な絵のように見えるということ。
- 3 金堂を建立した人間の芸術的精神は、この土地ならではの天と地の偉大さに育まれたものだということ。
- 4 天平時代の建築家は、天と地の豊かな色彩を用いて仏教建築を創造していたにちがいないということ。

問七 空欄 A にあてはまる語句はなにか。次の1～4のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は

12。

- 1 を非難して
- 2 を無視して
- 3 に同調して
- 4 に感服して

問八 空欄 B にあてはまる漢字はなにか。次の1～5のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は

13。

- 1 和
- 2 神
- 3 波
- 4 音
- 5 間

問九 傍線部「そこだけをわたくしと固く際立てていった」とあるが、この表現からうかがえることはなにか。次の1～4のうちから

最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 14。

- 1 自身が一度決めたことに、かたくなにこだわらざるをえない穂の真面目な性格。
- 2 自分自身を対象化し、自分の語る言葉に客観性を持たせようとする穂の自意識。
- 3 今後の人生を決定する主体は、ほかならぬ自分自身なのだという穂の強い意志。
- 4 親友である「私」に対し、自分の決心を素直にさらけだそうと決めた穂の覚悟。

## 問題二

次は、(注1)こばやしひでお 小林秀雄と(注2)おかきまて 岡潔の対談の一部である。この文章を読んで、後の間に答えなさい。

小林 私はいま(注3)もとりのりなが「本居宣長」を書いていますが、あなたがおっしゃる情緒という言葉から、宣長の「ものあはれ」の説を連想するのですが。これはやはり情緒が基だという説なんです。あの人には、ほんとうは説としてまとまったものはなくて、雑文みたいなもの集まりがあるだけなのです。それで大体こういうことが言いたかったのであろうということ、私は推量するわけです。宣長は昔の人ですから、今の人みたいに理論的に神経質じゃありません。

A

したもののあわれの理論をこしらえるなんていう考えはモウトウないのです。だから勝手なことを言っているわけです。

岡 理論とか体系とかは、欧米から学んだもので、以前にはなかったのです。

小林 あの頃の日本人には一つもないのです。システムなんて言葉は何だかわからないのです。ですから推量するわけですが、もちろん宣長自身としては一貫しているのです。言いたいことがわかっているから、こうだろう、ああだろうと、こつちから推察するので。そういうふうに見ますと、ああいう説は、あとから、例えば坪内逍遙(注4)つぼうちしやうようが取りあげるような美学じゃないのですよ。文学説でもないのです。あれはあの人の人生観で哲学なんです。あわれを知る心とは、文学に限って言ったわけではなく、自分の全体の生き方なんです。それが誰も生き方なんです。そこまで確信してしまった人なのです。

ですから日本主義というようなレッテルからあの人を理解することは出来ないのです。そのあと平田篤胤(注5)ひらたあつたねという人が日本主義と呼んでいいような思想を組みあげるのです。宣長先生はいろいろ矛盾しているからといって、正しく合理的な一つのシステムを作ろうとした。これが日本主義のイデオロギーとして後に影響するのです。しかし本居宣長はそういう人ではない。詩人ではないが、たいへん詩人的なところがありまして、どんどん一人で歩いて行って、もう先きは無いところまで来て、ぼっくり死んだのです。そういう意味で宣長さんの考えた情緒というものは、道徳や宗教やいろいろなことをハウガン(注6)かうかんした概念なんです。単に美学的な概念ではないのです。

私はこの頃、仕事をしていて、これはどうなるかな、やっているうちにとんでもない失敗をするかもしれないなど、いつでも思うのですが、岡さんはどうですか。

岡 ええ。どうなるか全くわからない。

小林 わからんでしような。わかれば書きませんね。

岡 そうでなければ、読む人は企(注7)たくらみに踊らされているような気がするでしょう。

小林 方向だけは決まりますが、やれるかどうかはわかりませんね。

岡 きっと本当のやり方はそうなると思います。

小林 未来はわかりませんと思いますね。

岡 なにか話せと言われ、これについて話そうとある気持きもちができる。それで話は確かに出来ます。しかし結論をもったものになるかどうか、それはわかりません。本当のことをしゃべったり聞くことはどうしてもそうなります。

<sup>(注6)</sup> ドストエフスキーの小説も、どこへ発展するのかわかりませんね。

小林 ええ。その点では、文学者のうちで極端にそういう型の人でしょう。ドストエフスキーをお好きなようですね。どこかで「白痴」<sup>(注7)</sup>のことを書いていらつしゃいましたね。私はドストエフスキーのことはずいぶん書いたんですが、いまだってわかつているわけではないのです。最近<sup>(注8)</sup>、「白痴」を書きました。

岡 ドストエフスキーのトクチヨウが「白痴」に一番よく出ているのではないかと思います。

小林 ドストエフスキーは自分で「白痴」が一番好きなんです。私も好きです。ドストエフスキーをよく見ますと、初めに方向が決まって、死ぬまでほかのことはしていません。おもしろいことですね。いろいろ作家を見ていると、大体二十代で方向が決まって、それからあとほかのことは考えていません。考えられないに違いない。そういう人は正直だから自分の身丈にあつたことしか考えようとしなないので。精神を集中していると何かということではなく、ほかのことを考える暇がない、そのオモムくまおもむくままに歩いているのです。ぼくはそう思うのです。岡さんも二十代にそういうことをおやりになって、方向は変かわっていないでしょう。

岡 変えられませんよ。

小林 ぼくも不思議なことだが、振りかえってみますと、二十代でこれはと思つたことは変えていません。それを一歩も出ないです。ただそれを少し詳しくしているだけです。ぼくは批評家になろうと思つたことにはない、世間が私を批評家にしたのです。ぼくはただ文章を書いていただけなのです。文章を書く対象として、作家や思想家があつたというに過ぎないのです。私は人というものがわからないとつまらないのです。だれの文章を読んでも、その人がわかると、たとえつまらない文章でもおもしろくなります。石や紙という物をかいてもおもしろいものと同じように、人間というものはそこに実体が存在するのです。それが無いのがあるでしょう。それは私にはつまらない。

B

岡 それは理論の根本でしょうね。実際一人の人というのは不思議なものです。それがわからなければ個人主義もわからないわけです。そういう事実を個人の尊厳と言っているのです。利己的な行為が尊厳であるかのように新憲法の前文では読めますが、誰が書い

たのですかな。書いた連中には個人の存在の深さはわからない。個人の存在が底までわかり、従ってその全体像がわかってはじめて、その人の残した一言一句も本当にわかるわけですね。いまの知識階級のごく少数の人だけでもわかってくれたらよいと思います。個人主義をごく甘く見てしまっているんです。そういう個人というものがわからなければ、もののあわれというものも恐らくわからないでしょうし、もの<sup>h</sup>のあわれがわからなければ平和と言ったってむなし言葉にすぎないでしょう。

小林 僕はドストエフスキーほどよく読んではいませんが、<sup>(注9)</sup>トルストイも好きです。ドストエフスキーはトルストイをあまり好かなかったのですが。

岡 生理的本能をもてあました人に違いない。トルストイは  に似ている。一目でわかるものを歩いてみる気はしない。そんな感じがするでしょう。書かれていることが初めから形式論理の範疇<sup>はんちゆう</sup>にあるような気がする。それと対照的なのがドストエフスキーです。ドストエフスキーは次のページを予測することができない。

小林 そういうことはありません。トルストイも偉いです。言葉は乱暴ですが、トルストイには、言葉の飛び切りの意味でドストエフスキーと違って馬鹿正直なところがあるのです。ドストエフスキーという人には、これも飛び切りの意味で狡猾<sup>こつかく</sup>なところがあるので。トルストイは真正直で健康な、鋭敏にして合理的な野性児です。最後はあんな悲惨なことになって死にますがね。<sup>(注10)</sup>野垂れ死<sup>じに</sup>まで一直線に進むのです。ドストエフスキーというのは絶対にそうではない、病身で複雑な都会人です……。

岡  ですか。

小林  ですか。ドストエフスキーの魅力は、そういうところにあります。

岡 そうすると、私は  の書いたものが好きで、真正直な人の書いたものが嫌いであるという傾向をもっているので、少しケイカイ<sup>i</sup>をしなければいけない。  だから「白痴」<sup>(注11)</sup>にしろ「カラマゾフの兄弟」<sup>(注12)</sup>にしろ書けたのですか。

小林 あなたはそういうことをおっしゃるけれど、あなたは数学者で、例えばリーマンとポアンカレとどっちが好きかということを私が論じたって仕方ないことです。ところがあなたならそういう数学者の人間というものはよくわかっているわけです。それと同じで、文学にもまた<sup>j</sup>そういう小説に親しむという世界があるのです。  の作品にも感動があるのです。

(小林秀雄 岡潔『人間の建設』による)

(注)

- 1 小林秀雄……評論家(一九〇二～一九八三)。自意識と存在の問題を軸とする近代批評を確立した。
- 2 岡潔……数学者(一九〇一～一九七八)。多変数解析関数論の研究において世界の数学界に大きく貢献した。
- 3 「本居宣長」……小林秀雄は、一九六五年六月から、『新潮』に評論「本居宣長」を連載していた。本居宣長は江戸中期の国学者(一七三〇～一八〇二)。
- 4 坪内逍遙……評論家・小説家・劇作家(一八五九～一九三五)。写実主義を提唱し、日本の近代文学の先駆者となった。
- 5 平田篤胤……江戸後期の国学者(一七七六～一八四三)。宣長の古道精神を拡大強化、復古神道を唱え、幕末の尊王攘夷運動に影響を与えた。
- 6 ドストエフスキー……ロシアの小説家(一八二一～一八八二)。混迷する社会の諸相を背景とし、内面的、心理的矛盾と相克の世界を描き、人間存在の根本的問題を追求した。

7 「白痴」……一八六八年に連載開始されたドストエフスキーの長編小説。

8 最近、「白痴」を……小林秀雄は、本文の対談が行われた前年である一九六四年五月、角川書店から『「白痴」について』を刊行した。

9 トルストイ……ロシアの小説家・思想家(一八二八～一九一〇)。代表作に「アンナ・カレーニナ」「復活」などがある。

10 野垂れ死……一九一〇年、八二歳のトルストイは侍医を伴って家出するも、途中で肺炎に罹り、駅で死去した。

11 「カラマゾフの兄弟」……一八七九年に連載開始されたドストエフスキーの長編小説。

12 リーマンとポアンカレ……リーマンはドイツの数学者(一八二六～一八六六)。非ユークリッド幾何学、楕円関数論などの研究で知られる。ポアンカレはフランスの数学者・天文学者・物理学者(一八五四～一九一二)。微分方程式・関数論や天体力学などの研究で功績があるほか、実用主義に対して科学のための科学思想を主張した。

問一

空欄

A

にあてはまる四字熟語はなにか。次の1～4のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は

15

- 1 一喜一憂
- 2 首尾一貫
- 3 沈黙考
- 4 暗中摸索

問二 傍線部 a・c・f・g・i と同じ漢字を含むものはどれか。次の1～4のうちから最も適当なものをそれぞれ一つずつ選びマ

クしなさい。解答番号は 16 ) 20 。

a「モウトウ」

- 1 彼はモウゲンを吐くことが多いので、今後が心配だ。
- 2 この本は、古今東西の箴言しんげんをモウラしたものだ。
- 3 顕微鏡で、生物の体内のセンモウを観察した。
- 4 後半、相手チームのモウコウを受け苦戦した。

c「ホウガン」

- 1 先生の最後の挨拶は、非常にガンチクのあるものだった。
- 2 ガングの店に勤めているので、子どもの好きなものはわかるつもりだ。
- 3 彼はガンジョウな体をしている。
- 4 ガンゼンに広がる風景に心が洗われた。

f「トクチヨウ」

- 1 弊社はキヨウチヨウセイのある方が必要としています。
- 2 予算を大きくチヨウカしてしまった。
- 3 チヨウヨウの序を知らない新入社員が数人いる。
- 4 今年から、町内会費のチヨウシユウ係になった。

g「オモムク」

- 1 新しい上司が海外からフニンしてきた。
- 2 今度のグループのメンバーをみると、ゴエツドウシユウの感がある。
- 3 私の家はオウライに面しているので、見つけやすい。
- 4 むかしのことがソウマトウのように思い出される。

i「ケイカイ」

- 1 その建物は、近々カイチクされる予定だ。
- 2 カイリツとは、仏教徒が守るべき生活のきまりだ。
- 3 その山にはキカイな伝説が数多く存在する。
- 4 彼は学生のころ、キカイ体操の選手だった。

### 問三

傍線部b「そういう人ではない」とあるが、本居宣長はどのような人か。次の1～4のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 21。

- 1 特定の立場に制約された考えを体現する人。
- 2 詩人のようではない人。
- 3 日本主義という概念に縛られることのない人。
- 4 いろいろなことを確信してしまった人。

### 問四

傍線部d「そうでなければ」とあるが、どのような意味か。次の1～4のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 22。

- 1 結論がどうなるかわかったうえで書くのであれば、という意味。
- 2 書き手として失敗を恐れているのでなければ、という意味。
- 3 書き手として未来が全くわからないのであれば、という意味。
- 4 結論の方向だけは先に決めた上で書かなければ、という意味。

問五 傍線部e「ドストエフスキー」とあるが、どのような型の人か。次の1～4のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 23。

- 1 どのような方向へ自分を発展させるべきなのか、考えられないほど正直な性格の人。
- 2 若いときに自分の進むべき道を決めてしまったために、時間がなくなってしまった人。
- 3 あらかじめ決めた人生のヴィジョンに忠実なため、思い切った方向転換ができない人。
- 4 自分の仕事の方向は決まっているが、その後の展開については考えられない人。

問六 空欄 B にあてはまる語句はなにか。次の1～4のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は

24。

- 1 自然
- 2 文章
- 3 存在
- 4 尊厳

問七 傍線部h「ものあわれがわからなければ平和と言ったってむなし言葉にすぎないでしょう」とあるが、どういうことか。次の

1～4のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 25。

- 1 新憲法で「平和」を説くよりも先に、生身の個人の存在に目を向け、日本人の心性や生き方を理解するべきであるということ。
- 2 新憲法の前文を書いた人は、日本人と「ものあわれ」の関係を理解する姿勢を見せずに、「平和」という抽象的な言葉を繰り返しているだけだということ。

3 日本人の個人主義を表す「ものあわれ」を理解できない人が日本の新憲法に関わることは、意味がないばかりか、むしろ嘆かわしいことだということ。

4 個人と平和を真の意味で結びつけるには、「ものあわれ」のわかる知識階級のごく少数の人だけでも協力してくれることが必要だということ。



問一 空欄

E

にあてはまるものはなにか。次の1～4のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は

29。

- 1 ドストエフスキー
- 2 トルストイ
- 3 数学者
- 4 都会人

次ページ以降にも問題があります。

### 問題三 次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

言葉づかいが適切かどうかの判断は、結局それまでに出あった文例の記憶によるのです。人間は人の文章を読んで、文脈ごと言葉を覚えます。

A、多くの文例の記憶のある人は、「こんな言い方はしない」という判断ができます。

よい行動をしていきたいと思う人は、よいことをした人の話を聞いて見習うでしょう。同じように、鋭い、よい言葉づかいをしたいと思う人は、森鷗外、夏目漱石、谷崎潤一郎とか、現代だったら誰でしょうか、言葉に対してセンスが鋭い、いわゆる小説家・劇作家、詩人・歌人たち、B 適切な言葉を使って論文を書く学者、そういう人たちの作品・文章を多く読んで、文脈ごと言葉を覚えるのがよいのです。

骨董の目利きになるためには、よい物を、まず一流品を見続けなければだめといます。二流品を見ては眼がだめになる。文章もそれと同じです。よいと思われるもの、心をひくものを見馴れているうちに、ああ、これは雑だとか、ここはおかしいとか気づくようになる。自分を引きつけるものはその人にとってよいものなのです。だから、自分を引きつけるものを熟読して、それをいっそう鋭く深く受け取るようにすること。次に、よい文章といわれるものを読んで、どこが違うか、どちらがよいかを自分の目で判断すること。

ときには、「新しい言葉」をつくる人もいます。新しい言葉をつくろうと、現在は落語家やマンザイシ、あるいはコピーライターがしのぎを削っています。戦後にアジャパーだとかトンデモハップンだとか、一時は流行する表現がつけられました。その大部分は一〇年もたたずに消えました。それはつくられたものの底が浅かったのです。

久米正雄が「微笑」でもない「苦笑」でもない笑いを表現したいと思って、「微笑笑」という新語をつくった。この単語は現在、和英辞典にもコウモクとして立っています。これは人間社会にある一つの事実を的確にとらえて言語化したから、社会に存在を認められたのです。「わざと変な言葉」を使うと、その場だけは面白がられたりするでしょう。それと社会で存在権を認められる単語とは別です。

人間の行為・行動に、社会のいろいろな状況に応じて新しい行動が出てくるように、必要から新しい言葉が出てきます。それがいい言葉かどうかを感じる鋭い感覚が必要です。そこで必要なことはまず区別できる単語の数を増やすこと。自分が区別して使える語彙が多くなるとは、ぴったりした表現ができない。

自分の語彙を増やすことに関しては、小説家とか歌詠みたちなどは、みんな非常なクシン<sup>f</sup>をしています。C、与謝野晶子とか斎藤茂吉などの歌人は、辞書を読んでいって単語を拾ったようです。井上ひさしさんは、辞書をたくさん買って頭からそれを読むよ

うですし、大江健三郎おおえけんざぶろうさんは、あの堅牢けんろうな製本せいほんの『広辞苑』を三冊取り替えたという噂うわさです。『広辞苑』はそう簡単にはこわれない。だから、大江さんがいかに辞典を引いたか分かります。普通の人間は、せいぜい五、六万語知っていれば多い方でしょう。しかし、彼は二〇万語の日本語を消化しようとしたように見えます。しかも覚えた単語をそのままは使わない。大江さんには『万延元年（注5）まんえんげんねんのフットボール』とか『芽むしり仔撃ち』とか、普通にはない単語の組み合わせがあるでしょう。それは単語そのものではなくて、単語の組み合わせ方において新しくしようとしたのでしょう。

よい言い方、よくない言い方の問題として、「見れる」とか「起きれる」とかの「ラ抜き言葉」が問題にされることがあります。ラ抜き言葉をとがめだてするのも一つの言語感覚です。しかし「見れる」「起きれる」は可能動詞といふべきもので、江戸時代に「書かる」から新たに「書ける」という、古典語にはなかった可能動詞がつくられて、今は普通に行われていることを思えば、日本人の意識には「可能動詞」を欲する根源的な欲求があり、それに応えるように新形ができる。そのイッカンいっかんとして、「見れる」「起きれる」が数十年前から方言的に生じてきたわけで、それが今や広く使われるにいたった。私はこれを使いませんが、この発達は日本語としては

D 動きで、止めることはできないでしょう。

人の話す言葉のどれが正しいとするかは、なかなかむずかしいことです。それはどこに基準点をおくか、いつの時代、どこの言葉を規準とするかによります。どれが正しいかというところにフミこむと、保守的な態度の人、新しいことを好む人、いろいろあって、その人の人生や世界に対する考え方が言葉の選択の上に出てきます。今から何千年も昔（注7）くまひがたの楔形文字を解読したところ、「このごろの若者の言葉づかいが悪くて困る」とあったそうです。言葉は人間の行為だから、保守的、改新的という相違があるのは当然です。

私が「単語に敏感になろう」、「違い目について感覚のある人間になりましょう」と言っていることに注意して下さい。言葉をどう使うかは、その人が保守的な態度をとるのか、新しい態度をとるのかによって違う。それはその人その人なのです。これだけが正しい言い方だなどと簡単にはいえない。「言葉の違いに敏感になろう」。鈍感ではだめです。「ちつとも」と「さっぱり」は違うのか、違わないのか。「お客がちつとも来ない」と「お客がさっぱり来ない」とをくらべると、「さっぱり」には店主の期待はずれの感じがあるなど思うか思わないかです。

単語を的確に使うということで、大事なことが一つあります。例えば、「臆病な人」を「慎重な人」といったら、それは不的確ということになるでしょう。

E 「臆病」と「慎重」とではまったく別の言葉で間違えようはありません。不的確な表現になった原因は単語にはなく、事実を見る眼が曇っているのです。ほんとうは「臆病」なのに、それを「慎重」な態度だというのは、あるいは真実を避けて表現しているのかもしれませんが。「臆病な政治家」を「あの人は臆病だ」とはつきりと表現するのは、単に言葉に敏感になるだけでなく、

事実そのものをよく見る眼と心とが要ることです。はつきり見てきちつと表現する心がまえがなくては、言葉を的確に運用できないのですね。

(大野晋『おのすけの日本語練習帳』による)

(注) 1 アジャパー……「あじゃじゃあにしてはあでございます」を縮めた言葉。驚きあきたときに使う。昭和二〇年代に流行した。  
2 トンデモハッペン……「とんでもない」と英語の Happen(ハッペン)を結びつけた言葉。「とんでもない」を強めたいときに使う。昭和二五年頃に流行した。

3 久米正雄……小説家・劇作家・俳人(二八九一～一九五二)。

4 歌詠み……歌人のこと。

5 『万延元年のフットボール』……一九六七年に出版された大江健三郎の長編小説。万延元年は一八六〇年のこと。

6 『芽むしり仔撃ち』……一九五八年に出版された大江健三郎の初の長編小説。

7 楔形文字……メソポタミア文明で使われた古代文字。

### 問一

空欄

A

B

C

E

当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 30。

にあてはまる語句の組み合わせはどれか。次の1～4のうちから最も適

- |   |   |     |   |       |   |     |   |      |
|---|---|-----|---|-------|---|-----|---|------|
| 1 | A | だから | B | だが    | C | しかし | E | ところで |
| 2 | A | さて  | B | あるいは  | C | だが  | E | しかし  |
| 3 | A | 例えば | B | したがって | C | しかし | E | すなわち |
| 4 | A | だから | B | あるいは  | C | 例えば | E | しかし  |

問二 傍線部 a に「谷崎潤一郎」とあるが、谷崎潤一郎の作品ではないものを次の 1～4 のうちから一つ選びマークしなさい。解答番号

は 。

1 『春琴抄』

2 『細雪』さいよめゆき

3 『痴人の愛』

4 『雪国』

問三 傍線部 b 「目利き」とはどのような人か。次の 1～4 のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 。

1 いろいろなところに目を配って注意する人。

2 切れなくなつた刃物などを研ぐ人。

3 ものの真偽を見分けられる人。

4 探しものが得意な人。

問四 傍線部 c・e・f・i・j と同じ漢字を含むものはどれか。次の 1～4 のうちから最も適当なものをそれぞれ一つずつ選びマークしなさい。解答番号は  。

クしなさい。解答番号は  。

c 「マンザイシ」

1 彼女はサイカクのある人だ。

2 週一日はサイタクワークをしている。

3 サイフを忘れてしまった。

4 カレーのサイリヨウを買う。

e「コウモク」

- 1 プレゼンテーションのゲンコウを書く。
- 2 民法のジョウコウが変わった。
- 3 選挙にリッコウホする。
- 4 彼のコウセキをたたえる。

f「クシン」

- 1 母はシンの強い人だ。
- 2 ビザのシンセイをする。
- 3 シンライ関係をきずく。
- 4 なにかシンキョウの変化があったのだろう。

i「イツカン」

- 1 非常食としてカンヅメを買う。
- 2 兄はカンベキ主義だ。
- 3 カンキョウ問題に取り組む。
- 4 妹のカンビョウをする。

j「フみこむ」

- 1 大会に出るためにはトウロクしなければならぬ。
- 2 伝統をトウシユウする。
- 3 スーパーのテントウから米が消えた。
- 4 ゲンジツトウヒをする。

問五 傍線部d「しのぎを削って」の意味はどれか。次の1～4のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は

38。

- 1 他の力を圧倒して
- 2 激しく争いあつて
- 3 精神をすり減らして
- 4 苦境を押しつけて

問六

傍線部g「与謝野晶子」とあるが、与謝野晶子の歌集を次の1～4のうちから一つ選びマークしなさい。解答番号は

39。

- 1 『サラダ記念日』
- 2 『みだれ髪』
- 3 『赤光』
- 4 『雲母集』

問七

傍線部h「ラ抜き言葉」とあるが、ラ抜き言葉ではないものはどれか。次の1～4のうちから一つ選びマークしなさい。解答番号

は 40。

- 1 「こんなにたくさん食べられる？」
- 2 「将来のことなんて、考えれない。」
- 3 「生きている魚なんて、こわくてさわれない。」
- 4 「明日のバイト、はやく出れる？」

問八 空欄 D

にあてはまる語句はどれか。次の1～4のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は

41。

- 1 奇妙な
- 2 自然な
- 3 正反対な
- 4 絶望的な

問九 傍線部k「保守的な態度の人」とはどのような人か。次の1～4のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号

は 42。

- 1 「このごろの若者の言葉づかいが悪くて困る」という人。
- 2 楔形文字のような昔の古代文字を解読する人。
- 3 大江健三郎のように普通にはない単語の使い方をする人。
- 4 数十年前から方言的に生じてきた「見れる」「起きれる」という言葉を使う人。

問一〇 傍線部l「はつきり見てきちつと表現する」とは、具体的にどういうことか。次の1～4のうちから最も適当なものを一つ選び

マークしなさい。解答番号は 43。

- 1 自分よりも高い地位にいる人に、臆病だというのは失礼だから、慎重な人だということ。
- 2 よく知っている相手の場合、感情に流されてしまい、臆病な場合でも慎重だと感じてしまうこと。
- 3 相手が臆病なのか慎重なのかをよく見きわめ、臆病なのであれば臆病だと表現すること。
- 4 臆病と慎重はほとんど同じ行動だから、どちらで表現してもあまり変わらないと思うこと。

問一 本文で述べられている内容と同じものはどれか。次の1～4のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号

は 44。

- 1 普通の人にはせいぜい五、六万語を知っていればよいので、それ以上に知っていても無駄だ。
- 2 人間社会にある事実を的確にとらえて言語化したものは、新しい言葉でも社会に認められることがある。
- 3 言葉づかいが適切かどうかは、その人が生まれながらに持っているセンスが影響する。
- 4 わざと変な言葉を使うと、人気者になって社会で存在する権利がもらえるから、もつと使ったほうがいい。